

お気軽ハイキングマップ

青柳城址 坂北青柳 東山

東山 青柳城址公園ルート

所要時間：登り15分、下り10分

駐車場：青柳城址公園



駐車場・登り口アワヤス

碩水寺沿いの道を上がっていくと、高原野無細の広がる東山地区に入る。道なりに進むと青柳城址公園までの案内板が道沿いにある。案内板に従って進むと、豊利峠のゲートがあり、その先が青柳城址公園。

ゲートをくぐってすぐ右に入ると、お手洗いと駐車場。

※ゲートを開け、通過した後は必ずゲートを閉めてください。

青柳宿 山清寺ルート

所要時間：登り25分、下り20分

駐車場：山清寺裏手 登り口



駐車場・登り口アワヤス

坂北駅から青柳方面に進み、山清寺の裏側にぐもつと回る小路を進むと、左手に青柳城址への登り口の階段が見える。

登り口の麓に駐車可能。(スペースは2台分程。)

左側の膨らんだ個所に駐車をお願いします。



青柳城の歴史

青柳城址には、尾根の末端が山城で南北、西の3斜面は急峻であり、東に大小八つの郭と7条の空堀があります。

西陣を本丸とし、筑北村坂北地域、麻績村の山城が一望できる立地です。

天文22年(1532)武田氏と上杉氏が、また天文11年(122年)(1584-1585)には小笠原氏と上杉氏が攻防戦をして、天正15年(1587)に落城しました。

現在は青柳城址公園として櫓門や遊歩道が整備されており、往時の面影を偲びながら林の中をできる自然公園となっています。

鳥や虫の声に迎えられて林の中を通り抜けると、青柳城本丸跡に辿りつきます。

眼下に坂北地域を一望でき、北に聖高原、天候によつてはアルプスも広く見渡せます。

本丸城で絶景を眺めれば、青柳のお殿様の考えたことが浮かぶようです。

昭和49年3月22日に県の史跡として認定されています。

青柳氏の没落後、松本城主の石川康長が街道を整備し、伝馬役を定め、この青柳地区を宿場に定め、青柳宿として栄えました。

青柳 山清寺ルートコース

東山 青柳城址公園ルートコース

1 二重堀切



青柳城を防御する為に作られた土木建築物。尾根伝いに来た敵を足止めた。

2 石垣



戦国時代から状態よく現在まで残っている石垣。布目積みという手法で積み上げられている。

3 展望台



周辺の町並みだけでなく、天気のいい日にはアルプスも一望。

4 櫓門



実際に2階に上がることもできる。写真にもピッタリのスポット。

筑北村



お気軽ハイキングマップ

お茶坊様（鷹巣山） 本城乱橋

所要時間：登り25分、下り20分

※注意点

途中設置されているロープを伝って、岩場や傾斜の急な道を進む箇所があります。

トレッキングシューズなど滑りにくい靴で楽しんでいただくことを推奨いたします。

また、冬季は十分にお気を付けください。

駐車場：登り口から徒歩7分「みなくる館」

駐車場住所：長野県東筑摩郡筑北村乱橋811



お茶坊様の伝承

明治19年（1886）に没し、77年の生涯に暮を閉じた後も、死後遺言により修業地に埋葬され、石碑が残されています。

入里に降りた際には、何処の家と言わず、気軽に立ち寄ってお茶を飲んだり、飲み水の無い家に湧水地を教えたりして、地元の方々から「お茶坊様」と呼ばれ親しまれていました。

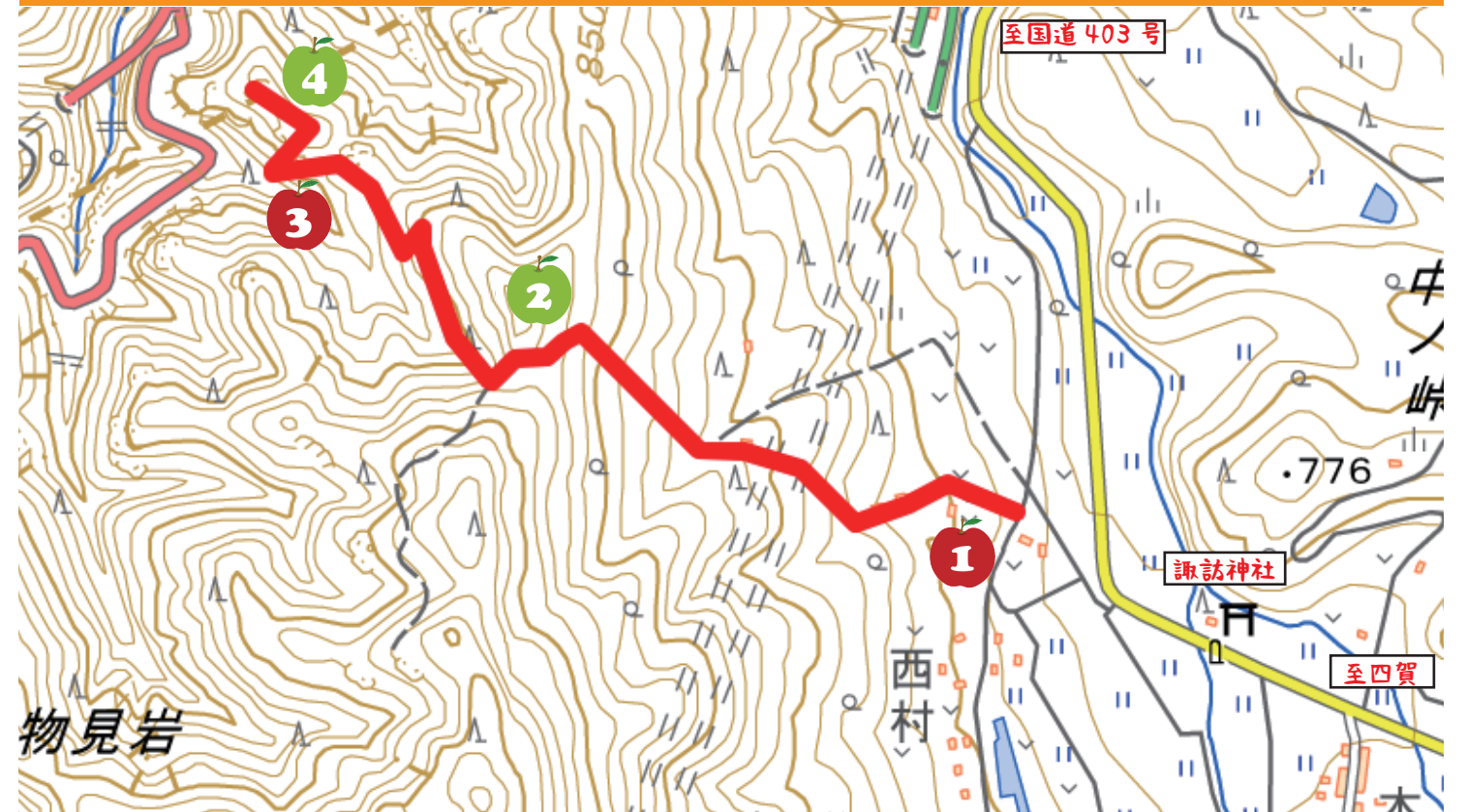
40代の頃、本城の乱橋、西条の村境地である鷹巣山岩穴を修業地として定住しました。

特に御嶽を道場とする修行によって神通力を得たとされます。

隆明は、文化6年（1809）に武蔵国玉郡に生まれ、はじめ高尾山で修業し、日本全国の霊地霊山を訪ね、

お茶坊様という名前は愛称であり、かつてこの地で修業をしていた、「隆明霊入」のことを言います。

コースマップ・スポット



1 矢印のアーチ



地元の方が作った矢印のアーチに沿って進めば入口から最後まで迷うことなく登れます。

2 鳥居



趣きある鳥居まで来たらずぐに稜線です。その先、足場が狭くなるので気をつけて進みましょう。

3 社・自然の岩肌



備え付けのロープで岩場を超えた先には社が。最終ゴールの岩穴まではあとちょっと！

4 お茶坊様の岩穴



お茶坊様が生前修行をされた岩穴は、中に入ると不思議な雰囲気。足元に十分注意の上向ってください。

ミミデ一枚！



お茶坊様の岩穴は2層。2つの層は小さな穴で繋がっており、片側の穴から顔を出して、地中や天井と一体になったあなただけの写真を撮る。なんとこの穴は昔はお茶坊様のお手洗い場所だったとの説も・・・

